

組織の目標設定シート(行政経営Aシート)

| | |
|----|-------|
| 組織 | 生産流通課 |
| 職 | 課長 |
| 氏名 | 奥本 勉 |

| | |
|---|--|
| 組織の使命・役割 | 何のために我が組織が存在するのか、我が組織が果たすべき使命・役割は何か |
| 消費者ニーズに沿った安全で良質な農畜産物の生産体制とブランド化の推進による販売力の強化 | |



| | | | | | | |
|---|--|------------|-------------|------------|-------------|-----------------------------------|
| 組織の目標 | 使命・役割を果たす上で、我が組織が目指すゴール(成果)は何か、その目標値はどのような水準か | | | | | |
| (定性的目標) | 何をどのような状態にしたいか | | | | | |
| ①特色ある県産農畜産物のブランド化を進め、販売の拡大を図る。 ②うまい・きれい石川米づくり運動を進め、県産米の品質向上を図る。 ③地域の条件に適した地域特産物づくりを推進し、水田での転作作物の拡大を図る。 ④消費者・実需者ニーズに対応した自主的な改革に取り組む園芸産地を育成する。 ⑤地産地消の推進 ⑥能登牛の生産拡大と品質向上により、他産地に負けない特色ある肉牛生産を推進する。 | | | | | | |
| (定量的目標) | 具体的な指標、目標値を設定する | | | | | |
| | 目標とする成果指標 | 現行値 | 年(度) | 目標値 | 年(度) | 目標値の設定根拠(他県との比較など) |
| ① | 戦略作物品目数 | 5 品目 | H23 年度 | 現状より増加 | H24 年度 | いしかわの食と農業・農村ビジョン |
| ② | 1等米比率 | 83 % | H23 年度 | 90 % | H27 年度 | いしかわの食と農業・農村ビジョン |
| ③ | 転作作物の作付率 | 59 % | H23 年度 | 70 % | H24 年度 | いしかわの食と農業・農村ビジョンの各品目の目標数値を基本として積算 |
| ④ | 産地マーケティングに取り組む産地数 | 19 産地 | H23 年度 | 10 産地 | H27 年度 | いしかわの食と農業・農村ビジョン |
| ⑤ | 地産地消推進協力店数 | 788 店 | H23 年度 | 1000 店 | H27 年度 | |
| ⑥ | 能登牛の認定頭数 | 604 頭 | H23 年度 | 1,000 頭 | H26 年度 | |



| | |
|--------------------------|--|
| 24年度に重点的に取り組むべき課題 | 左記の具体的な内容を記載する |
| ①県産農畜産物のブランド化、販路拡大 | ブランド食材プロデューサーの設置や県産食材求評懇談会等の開催を通して、県産食材の新たな販路開拓・拡大を図る。 |
| ②良品質で売れる米づくりの推進 | 地域の品質向上の課題を明確にし、実情に応じた品質向上対策を徹底することにより1等米比率の向上を図る。 |
| ③効率的な水田利用の推進 | 麦・大豆を中心とし、飼料作物、地域特産物等を地域特性を活かした多様な産地づくりの推進を図る。 |
| ④特色ある園芸産地の育成 | 消費者・実需者ニーズに基づいて、出荷形態や栽培方法の改善に主体的に取り組む産地の育成を図る。 |
| ⑤能登牛の生産基盤を整備 | 能登牛の生産基盤を拡充するために、肥育農家の規模拡大及び酪農家における乳肉複合経営の推進を図る。 |